

Ⅱ 調査結果の概要

全業種で好転が見られるものの、見通しは依然厳しい状況が続く

1. 全体の概況

売上高と収益性を合わせたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、28年4-6月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲4.1となり、前回調査(29年1-3月期)の▲17.8から13.7ポイント上昇している。来期見通しにおいては、2.6ポイント下降して▲6.7となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については0.0となり、前回調査から16.1ポイント上昇している。来期見通しにおいては4.0ポイント下降して▲4.0となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲8.1となり、前回調査から11.4ポイント上昇している。来期見通しにおいては1.2ポイント下降して▲9.3となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲4.1となり、前回調査から12.6ポイント上昇している。来期見通しにおいては3.8ポイント下降して▲7.9となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については23.4となり、前回調査から0.4ポイント上昇している。

販売価格D I（前期比）については▲4.5となり、前回調査から3.7ポイント上昇している。

資金繰りD I（前期比）については▲6.1となり、前回調査から6.1ポイント上昇し、好転している。

金融機関の態度D I（前期比）については0.0となり、前回調査から5.0ポイント下降し、硬化している。

設備投資実施率については26.2%となり、前回調査から0.9ポイント下降している。業種別で最も高い実施率となったのは「食料品」の47.9%、目的別では「品質向上」が27.7%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については31.2%となり、前回調査から0.1ポイント下降している。

設備操業率D I（前期比）については▲9.4となり、前回調査から4.0ポイント上昇している。

雇用人員判断D I（前期比）については18.0となり、前回調査から3.6ポイント上昇し、不足感は依然として高い水準にある。

全体の景況天気図は、26年7-9月期に「曇」から「小雨」に転じて以来、12期ぶりに「曇」に転じたものの、来期見通しにおいては再び「小雨」に転じる見通しとなっている。

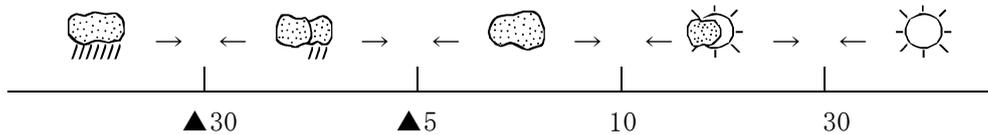
業種別に見ると「紙・加工品」は「曇」から「薄日」、「木材・木製品」・「機械・機器」・「プラスチック製品」は「小雨」から「曇」、「繊維・同製品」は「雨」から「小雨」へそれぞれ天気図が回復している。また、「金属・同製品」は「曇」、「食料品」・「窯業・土石製品」は「小雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「紙・加工品」は「薄日」から「小雨」、「プラスチック製品」・「木材・木製品」は「曇」から「小雨」へそれぞれ悪化。「機械・機器」・「金属・同製品」は「曇」、「窯業・土石製品」・「食料品」・「繊維・同製品」は「小雨」が続く見通しとなっている。

【図表 1】

	27			28				29		来 期 見 通
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	
全 体	 ▲20.1	 ▲21.9	 ▲14.9	 ▲20.6	 ▲22.2	 ▲21.3	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲4.1	 ▲6.7

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

